

道徳科学習指導案

授業Ⅱ

3年1組 33名 指導者 藤谷 祐一郎

本授業は、以下の検証を行うものである。

体験的な学習を通して考えたり、「心の見える図」を活用して対話活動を行ったりすることは、主体的に考え、多面的・多角的に吟味し、自己の生き方についての考えを深める手立てとして有効であったか。

1 主題名 自分に正直に（教材名「まどガラスと魚」〈読み物－日本文教出版〉）

2 ねらい

正直にできないときの後ろめたさや苦しさについて考える活動を通して、うそやごまかしは他者だけでなく自分自身をも偽ることになり、それによって不快な感情が起こることに気づき、過ちは素直に反省し、正直に明るい心で生活しようとする心情を育てる。（A 正直，誠実）

3 主題について

(1) ねらいとする道徳的価値について

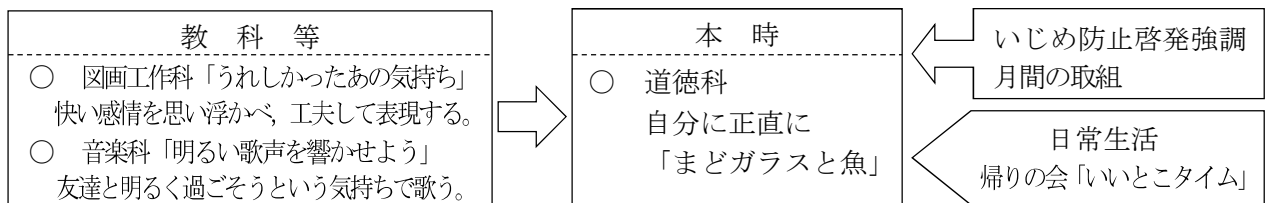
本主題は、A「過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。」で、偽りなく真面目に真心を込めて、明るい心で生活することに関する内容項目である。これは、低学年のA「うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること。」からつながったもので、高学年のA「誠実に、明るい心で生活すること。」へと発展するものである。

一人一人が、健康的で積極的に自分らしさを発揮できるようにするためには、自己の過ちを認め、改めていく素直さとともに、何事に対しても真面目に真心を込めて、明るく楽しい生活を心掛けようとする姿勢をもつことが大切である。過ちや失敗は誰にも起こり得ることである。そのときの自己保身的なうそやごまかしは、あくまでも一時しのぎに過ぎず、真の解決には至らない。そのことによって、他者の信頼を失うばかりか、自分自身の中に後悔や自責の念、強い良心の呵責などが生じる。それらを乗り越えようとするのが正直な心であり、自分自身に対する真面目さであり、伸び伸びと過ごそうとする心のすがすがしい明るさでもある。このような誠実な生き方をしようとする姿勢を育てていくことが大切である。

この期の子供は、快活さと興味の拡大から周りのことをよく考えずに自己中心的な行動をとる傾向があり、そのために、過ちや失敗を引き起こす。そのときに、自己保身からうそを言ったりごまかしたりしてしまい、後でばれて責められたり叱られたりすることが少なくない。過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活するためには、うそやごまかしは、他者だけでなく、自分自身をも偽ることになり、不快な感情をもち続けることになることに気付かせることが大切である。

そこで、本主題において、誰でも過ちや失敗を隠したりごまかしをしたりする人間の弱さがあることに気付かせ、自分を偽ることから起こる後悔や自責の念、良心の呵責について考え、その上で、正直であることの快適さを自覚させることは大変意義あるものと考ええる。

(2) 全体計画（別葉）との関連



(3) 子供の実態について 平成30年4月16日 調査人数33名 複数回答、()は反応数

① よくないことをして、正直に行動できたことがあるか。なぜ、正直にできたのか。【できた経験】			
ある (31)	ない (1)	思い出せない (1)	
・すつきりするから。(13)	・うそをつくのが嫌だから。(9)	・いつ見つかるかときどきするから。(7)	
・後悔せずにすむから。(5)	・うそをついたら叱られるから。(3)	・正直にしないといけないから(3)	
・気持ちよく生活できるから。(3)	・相手と仲良くなれるから。(3)	・問題が解決するから。(3)	
・人から信じてもらえるから。(2)	・相手が助かるから。(2)	・正直な人になれるから。(1)	
② よくないことをして、正直に行動できなかったことがあるか。なぜ、できなかったのか。【できなかった経験】			
ある (32)	ない (0)	思い出せない (1)	
・叱られるのがいやだから。(20)	・ごまかせそう思ったから。(9)	・面倒くさいから。(8)	
・わざとじゃないから。(7)	・自分だけが悪いわけではないから。(5)	・責められそうだから。(4)	
・このくらい大丈夫と思ったから。(4)	・逃げたら、気付かれないと思ったから。(3)		

③ 正直に行動することは、なぜ大切か。			【意義】
<自分にとって>	・後悔せずにすむ。(21)	・すっきりする。(12)	・相手から信じてもらえる。(7)
	・成長する。(7)	・正直な人になれる。(6)	・自分を好きになる。(1)
<相手ににとって>	・相手が助かる。(6)	・相手と信じ合える。(3)	・相手と仲良くなれる。(2)
<周りににとって>	・みんなが気持ちよく生活できる。(7)	・問題が解決する。(5)	・学級がよくなる。(3)
	・学級のみんなで信じ合える。(3)	・明るく楽しい雰囲気になる(1)	
④ 正直に行動するためには、どんな考えが大切か。			【心構え】
・うそを言わない。(14)	・したことを正直に認める。(5)	・すぐに謝る。(4)	・勇気をもつ。(2)
・逃げない気持ちをもつ。(1)	・反省する。(1)	・人のせいにしない。(1)	・相手のことを考える。(1)
・みんなのことを考える。(1)	・相手が困っていないか考える。(1)	・正しいかどうか考える。(1)	

本学級の子供は、実態アンケート①、②より、正直に行動できた経験もできなかった経験もどちらもあることが分かる。正直にできた理由は、すっきりするという快い感情から行動につながっている子供が多い。しかし、中には、うそをついたら叱られるといった他律的な考えや正直にしないといけないという決まりだからと考えて行動している子供もいる。できない理由は、叱られるから、責められるからといった保身的な考えが半数以上で、中には、自分だけが悪いのではないといった責任逃れの考えもある。③よりその意義については、自分にとってはすっきりした気持ちにつながると理解している子供が多いが、正直に行動することが相手や周りににとってよい影響を与えることにあまり気付いていないことが分かる。さらに、④よりその心構えについては、うそを言わない、正直に認める、すぐに謝るなど、日常生活で大人から教わったことを多く挙げていることが分かる。

そこで、人は誰でも過ちや失敗をすると、自己保身からうそを言ったりごまかしたりしてしまう弱さがあることに気付かせ、そのうそやごまかしから起こる後悔や良心の呵責、葛藤について深く考えることができるようにしたい。その上で、正直に行動できたときの心の快適さやすがすがしさについて自覚を深め、明るく伸び伸びと正直に生きようとする意欲を育てるようにしたい。

(4) 教材について

本教材は、窓ガラスを割って逃げてしまった主人公の千一郎が、近所のお姉さんの誠実な行動に自分を省み、正直に自分の過ちを告白するという話である。

主人公の千一郎が友達と文助とキャッチボールをしている際、誤って窓ガラスを割ってしまうところから始まる。文助の「逃げろ。」の声に、悪いと思いつつも逃げてしまう。その後、自分の過ちから、暗い心で数日を送らなければならなくなる。しかし、近所のお姉さんの正直な謝罪の行為に出会い、はっとする。翌朝、真っ先に母親に話し、正直に謝りに行くという内容である。

本教材は、子供が日常で引き起こしそうな行為を描いており、共感しやすいものである。そこで、迷い悩む千一郎になって考えるようにすることで、自分の過ちを正直に話せない人間の弱さやそのことから沸き起こる不快な感情について理解することができると考える。また、千一郎の謝罪した後の姿を考えることを通して、正直に行動することで、互いに気持ちよく明るい生活ができることに気付かせることができる。

4 指導に当たって

見つめる過程では、「鬼ごっこで鉢を割ってしまいました。でも、誰も見ていません。あなたはどうしますか。」という具体的な事例を挙げ、自分の取りそうな行動とその理由を考えるようにする。その際、正直に行動したいが、なかなかできない心の弱さを引き出し、揺さぶることで、「正直に行動できないのは、どうしてだろう。」という共通の問題意識をもつことができるようにする。

問い直す過程では、問題場面で遠回りして見に行く千一郎になって役割演技をさせることで、素直に謝らなければならない思いながらも、なかなか正直にできない気持ちに共感することができるようにする。その際、出てきた千一郎の迷い悩む気持ちを「心に見える図(コップ図)」にまとめるようにする。また、お姉さんの誠実な姿を見た千一郎の気持ちを「心に見える図」に書き加えることで、正直にできないことから生まれる不快な感情の高まりに気付くことができるようにする。さらに、「誰がしたか分からないから別に話さなくてよかったのではないか。」と問い掛けることで、自分の中には不快な感情から逃れ、心の快適さを求める気持ちがあることに気付くことができるようにする。さらに、「おじいさんの立場だったらどうか。」「その結果、どうなったか。」などの「深める発問」を投げ掛けることで、正直に行動することの意義について多面的・多角的に考えることができるようにする。

振り返る過程では、この学習で見いだした考えをまとめたり、実生活で生かせそうな場面を想起したりすることで、自分との関わりで捉え、これからの自己の生き方に結び付けて考えることができるようにする。

あたためる過程では、誰にでも弱い心があることを押さえ、過ちや失敗があっても素直に認め、正直に謝ることができた様子を紹介することで、誠実な生き方の素晴らしさを実感させ、これからの実践に向けて意欲を高めることができるようにする。

5 本時の展開

[] 子供の意識 ○ 指導の手立て ※評価

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
見つめる	5	1 具体的な事例を考え、本時のめあてをつかむ。 - 叱られるから、逃げる。 - うそは嫌だから、正直に話す。 正直に行動できないことがあるのは、どうしてだろう。	○ 正直に関わる具体的な事例を挙げ、正直に行動したいがなかなかできない人間の弱さを引き出し、揺さぶることで、「正直に行動できないのはどうしてか。」という共通の問題意識をもつことができるようにする。
問い直す	30	2 教材「まどガラスと魚」を読んで考え、話し合う。 (1) 張り紙を見て、迷っている主人公の気持ちについて話し合う。 心のコップ図 (2) 一晩考えて、お母さんに正直に話した千一郎の気持ちについて話し合う。 - 自分は、このままでいいの？ - ごまかす自分がはずかしい。 - ずっともやもやしているのは嫌だ。 - お姉さんみたいに正直に言って、すっきりしたい。 (3) 正直に行動することの意義や大切さについて話し合う。 - 悩んだり後悔したりせずに済む。 - 自分も相手もいい気持ちになる。 - お互いに明るい気持ちで過ごせる。	○ 教材を読む前に、登場人物や問題場面の状況を確認できるようにする。 ○ 遠回りして見に行く千一郎になって役割演技をすることで、素直に謝らなければと思いながらも、なかなか謝れない気持ちに共感できるようにする。 言 正直にできずに悩む千一郎の気持ちについて、「心の見える図(コップ図)」を用いてまとめるようにする。また、探してまで謝るお姉さんの姿勢を見た千一郎の心の動きを「心の見える図」に書き加えることで、正直にできないことから生まれる不快な感情の高まりに気付くことができるようにする。 ○ 「誰がしたか分からないから別に話さなくてよかったのではないかな。」と問い掛けることで、自分の中には不快な感情から逃れ、心の快適さを求める気持ちがあることに気付くことができるようにする。 ○ 「おじいさんの立場だったらどうか。」「その結果、どうなったか。」などの「深める発問」を投げ掛けることで、正直に行動することの意義について多面的・多角的に考えることができるようにする。
振り返る	7	3 本時の学習を振り返り、自分の考えをまとめる。 - 正直にできないときは、後の自分の気持ちを考えることが大切だ。 - これまでは自分は、叱られるからとうそをついていたな。生かせそうな場面は、忘れ物をしたときだ。 - 全体での話合いで心に残った言葉は「自分にうそをついている」だ。	※ 振り返る活動における子供の考えを机間指導において次の視点で評価する。 (道徳ノート) ○ 今日の学習で見いだした考えや道徳的価値について ○ これまでの経験の振り返りと実生活で生かせそうな場面について ○ 学びが深まった友達の考えや学び方(話合い)について
あたためる	3	4 過ちや失敗を認め、正直に行動することについて教師の説話を聞く。 失敗をごまかしたり、うそをついたりせずに、素直に認めて謝りたいな。そうすれば、明るく過ごせそうだな。	○ 誰にでも弱い心があることを押さえ、過ちや失敗をしたとき正直に謝ることができた様子を紹介し、これからの実践に向けて意欲を高めることができるようにする。

道徳科学習指導略案

授業 I

6 年 2 組 3 8 名 指導者 別府 亮太

本授業は、以下の検証を行うものである。

「見方・考え方」を働かせる問い掛けを行ったり、「心の見える図」を活用して対話活動を行ったりすることは、主体的に考え、多面的・多角的に吟味し、自己の生き方についての考えを深める手立てとして有効であったか。

1 主題名 異なる立場を尊重して（教材名『ダン』をどうする？）〈読み物一日本文教出版〉

2 ねらい

団地の子供たちと自治会役員の思いを比較して考える活動を通して、自分の意見や考えを相手に伝えるときにも、謙虚で広い心をもつことの大切さに気付き、自分と異なる意見や立場を尊重しようとする態度を育てる。（B 相互理解，寛容）

3 指導に当たって

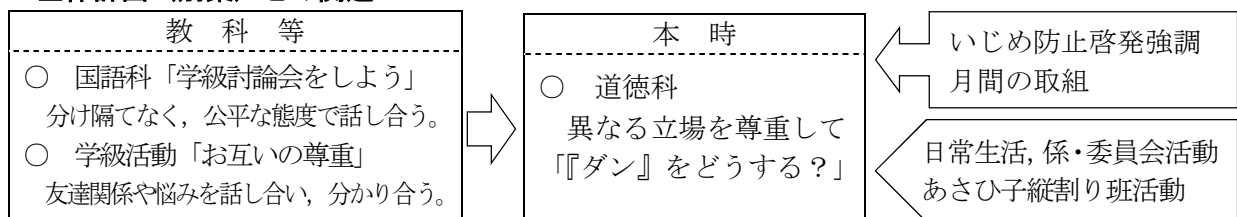
見つめる過程では、友達と意見が食い違って考えが一つにまとまらない状況を想起させた上で、「本当はどうしたかったのか。」と問い掛けることで、「言い合いにならずに考えをまとめるには、どうすればよいのだろう。」という共通の問題意識をもつことができるようにする。

問い直す過程では、まず、子供たちが拾ってきた犬「ダン」の特徴や団地の規則について補説し、その上で自治会の役員と子供たちの置かれた状況を整理することで、問題場面を焦点化できるようにする。次に、一斉に頭を下げたダンを飼うことを願う子供たちの思いとダンと飼うことを許可するかどうかわる役員たちの思いを比較して考え、「心の見える図」を用いてまとめるようにする。その中で、団地の子供たちには、自分の思いだけでなく、相手（住民）の思いも大切にしようとする考えがあることに気付くようにする。さらに、「どちらの考えがよいか。」と問い掛け、団地の子供たちの価値観のよさに気付くことができるようにする。最後に、「その結果、どうなったか。」「それで、みんなが幸せになれたか。」などの「深める発問」を投げ掛けることで、謙虚で広い心をもつことの大切さについて多面的・多角的に考えることができるようにする。

振り返る過程では、この学習で見いだした考えをまとめたり、実生活で生かせる場面を考えたりすることで、自分との関わりで捉え、自己の生き方に結び付けて考えることができるようにする。

あたまめる過程では、愛媛県松山市の市営住宅で実際にダンが飼われていたことや、ダンを救った子供たちの通った小学校でダンの石像が大切にされていることなどを紹介することで、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することの素晴らしさを実感させ、これからの実践に向けて意欲を高めることができるようにする。

4 全体計画（別葉）との関連



5 教材について

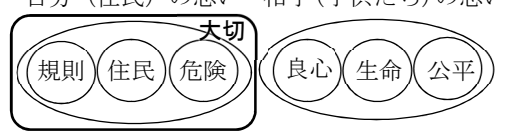
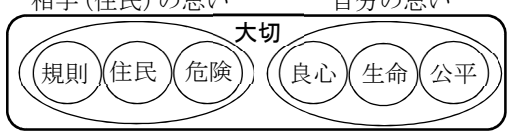
本教材は、団地の自治会役員が、目の見えない犬「ダン」を拾った子供たちから、団地で飼って世話をしたいとの申し出を受け、話し合いを重ねるという話である。

最初、役員たちは、自治会の規則を重視するあまり、子供たちの願いを受け入れることが困難だと考えていた。しかし、他者の意見も謙虚に受け入れながら、自分の考えや意見を伝えようとする子供たちの真摯な姿に、役員たちは、自分たちの考え方をみつめ直すという内容である。

本教材は、住民が気持ちよく生活するために定めた団地の規則を変えてまで、ダンを飼うことを受け入れるのが困難であると同時に、子供たちの真摯な姿を前にした自治会役員が悩み、人としてどうすべきか迷う気持ちについて共感できるものである。その迷いについて自分との関わりで考え、どうして役員たちがダンを飼うことを許可する結論に至ったのかを多面的・多角的に吟味することで、謙虚で広い心を持ち、自分と異なる意見や立場を尊重することの大切さに気付き、自己の生き方についての考えを深めることができる教材である。

6 本時の展開

[] 子供の意識 ○ 指導の手立て ※評価

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
見つめる	3	1 友達と意見が食い違って言い合いになった場面について想起し、本時のめあてをつかむ。 〔・ なんで分かってくれないの。 ・ 仲良く話し合いたい。〕 言い合いにならずに考えをまとめるには、どうすればよいのだろう。	○ 「言い合いになって構わないのか。」 「本当はどうしたかったのか。」を問い掛けて揺さぶることで、「言い合いにならずに考えをまとめるには、どうすればよいのだろう。」という共通の問題意識をもつことができるようにする。
問い直す	3 5	2 教材『ダン』をどうする?」を読んで、話し合う。 (1) 子供たちの気持ちと役員たちの気持ちを比較しながら話し合う。 心の見える図(役員たち) 自分(住民)の思い 相手(子供たち)の思い  心の見える図(子供たち) 相手(住民)の思い 自分の思い  〔・ ダンがかわいそうだ。助けたい。 ・ 規則は守らなければならないものだ。 ・ 犬が苦手な住民もいる。〕 ⇒〔・ 目につかないところで飼う。 ・ 掃除や体洗いもする。〕 (2) 団地の子供たちの考えのよさについて考え、謙虚で広い心をもつことの意義について話し合う。 〔・ お互いが納得できる。 ・ 気持ちよく暮らせる。〕	○ 教材を読む前に、子供たちが拾ってきた犬「ダン」の特徴や団地の規則について補説し、自治会の役員と子供たちの置かれた状況を整理する。 〔問〕「役員たちは何に迷っているか。」と発問した上で、ダンを「飼う」、「飼わない」双方の理由を出し合うことで、問題点を焦点化する。 ○ 子供たちの考えと役員たちの考えを「心の見える図」を用いて比較し、相対する考えがあることに気付くようにする。 ○ 比較する中で、自分たちの考えだけでなく、相手(住民)の考えも大切にしようとする考え方に気付くようにする。 〔言〕「どちらの考えがよいか。」と問い掛け、子供たちの価値観のよさに気付くようにする。その際、「子供たちに教えられたこと」とは何かをワークシートに記述して話し合うようにする。 〔言〕「その結果、どうなったか。」「それで、みんなが幸せになれたか。」などの「深める発問」を投げ掛けることで、謙虚で広い心をもつことの意義について多面的・多角的に考えることができるようにする。
振り返る	5	3 本時の学習を振り返り、自分の考えをまとめる。 〔・ お互いの考えをまとめるには、異なる考えも受け止めることが大切だ。 ・ 今までの自分は、相手がどうしてそう言っているのか聞かずに自分の意見ばかり主張していた。生かせる場面は、昼休みの遊びだ。 ・ ○○さんの考えで、「相手に寄り添って」というのがよかった。〕	※ 振り返る活動における子供の考えを机間指導において次の視点で評価する。 (道徳ノート) ○ 今日の学習で見いだした考えや道徳的価値について ○ これまでの経験の振り返りと実生活で生かせそうな場面について ○ 学びが深まった友達の考えや学び方(話し合い)について
あたためる	2	4 広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することについて教師の説話を聞く。 〔・ まずは、相手の立場を考えることを意識して行動したいな。 ・ 自分と異なる考えに耳を傾けることで、みんなが幸せになるのだな。〕	○ 実際にダンが飼われていたことや、そのときの様子を表す写真を紹介することで、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することの素晴らしさを実感させ、これからの実践に向けて意欲を高めることができるようにする。